

第70回国立民族学博物館運営会議議事要旨

日時 令和6年2月26日(月) 13:30～16:30

場所 国立民族学博物館第1会議室

出席者

(館外) 井野瀬、岡田、木川、窪田、富沢、中谷、水沢の各委員

(館内) 飯田、宇田川、岸上、韓、園田、日高、福岡の各委員

(陪席) 吉田館長、猿渡管理部長、一鷗総務課長、小野研究協力課長、馬場財務課長、
前原企画課長、北條情報課長

(事務局) 岩橋総務企画係員

議事に先立ち、岸上議長から、本会議は、国立民族学博物館運営会議規則第5条第1項及び第3項による成立要件を満たしている旨の説明があり、総務課長から配付資料の確認があった。

議 事

1. 会議の運営について

(1) 館長挨拶

吉田館長から、第70回国立民族学博物館運営会議(令和5年度第3回)開催にあたり、挨拶があった。

(2) 前回議事要旨(案)の確認について

岸上議長から、資料1に基づき、第69回国立民族学博物館運営会議(令和5年11月8日開催)の議事要旨(案)の確認が行われ、原案どおり承認された。

2. 協議事項

(1) 国立民族学博物館名誉教授の称号授与について

岸上議長から、資料2に基づき、本年3月31日をもって定年退職予定の教授3名に対する国立民族学博物館名誉教授の称号授与について審議願いたい旨の提案があり、対象の3名が名誉教授の称号授与の資格を満たしていることの説明があった。引き続き、事務局から、関係規程の説明があった後、発案者の各館内委員から、選考資料に基づき、候補者の功績等について詳細な説明があった。

また、岸上議長から、本件に関しては、1月23日(火)開催の部長会議の承認を得て推薦している旨、併せて説明があった。

審議の結果、対象の3名全員について、名誉教授の称号授与が承認された。

(2) 教員人事について

岸上議長から、資料3に基づき、人事委員会から提案のあった3件の人事案件(教授への昇任3件)について審議願いたい旨の説明があった。続いて、選考委員会の各主査から選考経過等について説明があり、審議、投票の結果、全件承認された。

(3) 外国人研究員人事について

宇田川委員から、資料4に基づき、外国人研究員候補者1名の受入について推薦理由等の説明があり、審議の結果、受入が承認された。

(4) 令和6年度国内客員部門担当教員について

岸上議長から、資料5に基づき、令和6年度国内客員部門担当教員（新規2名、継続8名）について審議願いたい旨の説明があり、審議の結果、全員の就任が承認された。

(5) 「館長に求められる人材像」について

岸上議長から、資料6に基づき、「館長に求められる人材像」について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

3. 報告事項

(1) 人事異動について

総務課長から、資料7に基づき、前回開催の運営会議以降の人事異動について、報告があった。

(2) 人事委員会について

岸上議長から、資料8に基づき、令和6年2月5日にウェブ開催された人事委員会について、報告があった。

(3) 共同利用委員会について

宇田川委員から、資料9に基づき、令和5年11月7日、11月17日、令和6年1月22日にメール開催、令和5年12月25日に開催された共同利用委員会について、報告があった。

(4) 国立民族学博物館の動きについて

1) 国立民族学博物館の最近の動きについて

各委員等から、資料10から15に基づき、以下の報告があった。

- ・ 宇田川委員から、評価、学術交流協定の締結、及び総研大について
- ・ 園田委員から、入館者数等について
- ・ 岸上議長から、本館の活動状況について
- ・ 吉田館長から、受賞について

2) 次年度の事業計画について

岸上議長から、資料16に基づき、次の事項について報告があった。

- ・ 共同研究
- ・ 特別研究
- ・ フォーラム型人類文化アーカイブズの構築にもとづく持続発展型人文学研究の推進
- ・ 広報企画事業
- ・ 文化資源関連事業
- ・ 情報運営関連事業

3) 国立民族学博物館をとりまく動きについて

吉田館長から、資料17に基づき、次の事項について報告があった。

- ・ 創設50周年記念事業について
- ・ 令和5年度補正予算における国立大学法人等施設整備予算について
- ・ 令和5年人事院勧告に伴う給与改定について
- ・ 令和6年度当初予算について

- ・若手研究者雇用支援事業（学振特別研究員PD）の本館の対応の概要について
- ・第4期中期計画の進捗にかかる自己点検・評価結果について

4. その他

館外委員から寄せられた主な意見は次のとおりであった。

- ・創設50周年が始まって令和7年3月までであるが、メディアへの露出、一年を通してのアピールがもう少しあっても良いと思う。
- ・第4期中期計画の進捗にかかる自己点検・評価結果には創設50周年にかかる記載がない。中期計画に上乘せして創設50周年事業を実施したと、より成果をあげたと記載するのが良いと思う。
- ・2月10日、11日の国際シンポジウムは、基本に踏み込んだ内容で、博物館のあり方を深く考えさせる良いシンポジウムだった。そのシンポジウムで、難民を受け入れて民族が増えていく中で博物館がどのような役割を果たせるのか、という海外の方の発言があり、日本も単一民族ではなくなってきている中で民博の果たす役割が大きいのではないかと思う。民博はさまざまなテーマで発信ができるので、日本社会にある閉塞感を打ち破るようなことを、創設50周年を機に考えてほしい。2025年開催の大阪・関西万博とあわせた発信も今からできるのではないかと思う。
- ・館長のよびかけで、短い期間にこれだけの（創設50周年事業にかかる）寄附が集まっていることを大きく意識しなければいけないと思う。大学と民博との違いは外からの期待のあり方の違いだと思う。日本社会には閉塞感があるが、知的なセンターとして民博に対する大きな期待があって、それに積極的にこたえるようにすることが創設50周年事業にもつながっていくべきだと思う。一般の方がシンポジウムをオンライン視聴できるなどビジビリティを増やしていくよう動いていくのが良いと思う。
- ・民博という知名度の大きさや、アクセシビリティの高さを国内の研究先で感じる人が多い。一方でどういう人が民博を作っているのかとと思っていた。人事委員会を通じて、意欲的で、博物館に所属することを明確に意識している人が多く、人に関して非常に頼もしいと思った。
- ・創設50周年事業として、国際シンポジウムが多数あって研究者レベルでの交流はあるが、一般にひろげる努力があっても良いと思う。スタンプラリーは予算をかけずにできる。
- ・創設50周年は重みのある歴史的なことなので、大々的に祝して良いと思うし、外部へどんどん開いていくのが良いと思う。
ファクトブックの「科研費による研究プロジェクト」のグラフをみて、少数の研究者が活発に活動しているように、外部資金に対しての挑戦的な意欲はかなり一握りの研究者に集中しているように見え、民博の中での研究活動の格差のようなものが出始めているかと思ったところで、検証するのが良いと思う。